

2021 年度版
ユタコロジー株式会社
環境レポート



はじめに_____

当社ユタコロジー株式会社は、経営理念【人々のために（誠実）、技術を伝播し（挑戦）、わくわく感を共創する（共感創造）】のもと、快適環境創造のため昨今の世界的環境課題解決に貢献できるよう事業活動を行っております。

環境理念_____

サービス提供指針 【できる方法を考える】

環境に関する方針

- ISO 環境方針に従う（別添付）
- SDGs と ISO 及び SBT の統合
- 脱炭素社会への貢献

事業所概要_____

社名	ユタコロジー株式会社（2019年11月 豊興業(株)より社名変更）
住所	本社 名古屋市昭和区広路本町4-48 研修センター 名古屋市中区金山5-15-5
創業	1959年11月1日
設立	1965年7月10日
資本金	1000万円
事業内容	ビル環境事業 トイレタリー商品企画製造販売 CSV 事業

1) 2020 年目標と実績値

項 目	単位	ISO 運用前	運用状況（2020年度）			対2002年度比	
		2002年度	目標値	実績値	達成率		
ガソリン使用量削減	L	16,850	9,500	11,331	84%	67.2%	
車両運転燃費	km/L	-	11.5	10.9	95%		
電気使用量（空調）	kWh	-	7,500	9,042	83%		
電気使用量（照明）	kWh	-	14,500	15,212	95%		
廃棄物抑制	kg	858	350	140	249%	16.4%	※
CO2削減							

2) 2020 年度環境に係る実績概要

SDGs に関する社内勉強会を行うと共にカーボンオフセットの手法の見直し、SBT 認証に向けた取り組み、脱炭素チャレンジカップ2021への協賛、劣化・不要ユニフォームのリサイクルといった活動を実施した。

BCP 対策とEMS 緊急事態対応に関する部分の統合化した計画を実施するための準備を開始した。その一環として、中小企業庁の事業継続力強化計画の認定を受けた。

新型コロナウイルスへの対応のため、業務グループの拠点を金山研修センターに移した。

EMS に関しては年度を会社の会計年度に合わせて変更したとともに、リスク及び機械の部分については会社の年度計画に含めてEMS と会社の事業活動の融合するよう改めた。

3) 各事項の変化について

環境マネジメントシステムに関連する外部及び内部の課題

外部に対する課題としては、昨年に引き続きSDGsに対する認知度が高まり、CO2削減もアメリカのパリ協定復帰により世界的な動きが加速している。これに合わせて、愛知県や名古屋市でもSDGsやCO2削減に関する施策に動きがあり、その参画、登録といった対応が必要になっている。

内部に対しては、ここ数年続いた管理項目の維持管理に対して、体制の見直しを行うことで対応の目処がついた。一方でEMSと会社業務との融合や新型コロナウイルスによる業務の状況の変化もあり対応作業が増えている。

順守義務を含む、利害関係者のニーズ及び期待

法令関係や社会動向についての情報提供を社内外に行うことは継続して必要と考える。利害関係者のニーズ及び期待については本年度の事業計画書に記載した通りである。

著しい環境側面

現在の環境側面だけでなく、SDGsの視点を入れて見直しを行った。あわせて、環境目標の見直しも行い、従来の目標項目を維持管理項目、あらたな取り組みを重点管理項目として次年度2021年より設定する。

環境目的・目標の達成状況（2020年度）

環境改善項目別の数値管理ができない月があり、一部項目で年間数値の取り纏めができなかった。また、新型コロナウイルスに対する影響もあり電力消費、ガソリン使用量等が増加している。業務のありかたにも変化がでてきているので、状況を把握して柔軟に対応したい。

4) 実施した環境パフォーマンス

排気ガスの抑制とガソリン使用量抑制

- アイドリングストップを中心とする「省エネ走行5つのポイント」の徹底

- 2021年より車両管理を見直し、運航記録簿に車両点検（空気圧含む）、走行距離、給油量を適切に記録するよう改める。

廃棄物の排出量削減

- 市条例を順守した分別の徹底（5S委員会による分別状況のチェック）

電力消費量の削減

- 運転状況の把握及び規制室温の設定と管理
- 不在時の消灯徹底と定時点検

紙使用量の抑制

- 裏面使用の徹底
- 会議資料のプロジェクター化
- お得意先への提出書類のメール化（協力要請）

汚水処理

- 対象洗浄汚水についてpH値を測定し、基準値内に中和処理をして廃棄
但し、処理量の記録が行われていないので必要性を含めて対応が必要

1 前回の内部監査、外部監査の結果

(ア) 前回外部監査

① 審査日

2020年9月24～25日（1.5日）

② 審査員

ベターリビング

③ 不適合

1項目（軽微）

④ 観察事項

7項目（審査報告書「MS観察事項リスト」参照のこと）

⑤ 充実事項

1項目（審査報告書「MS充実事項リスト」参照のこと）

⑥ フォロー状況

即対応可能なものは対応済み。

(イ) 前回(2021年度)内部監査

① 実施日

2021年4月21～22日

② 内部監査員

主任 永田圭司

③ 不適合事項

Aランク 0件

Bランク 10件

Cランク 5件

詳細は「内部監査報告書」を参照のこと。

④ フォロー状況

内部監査是正・予防処置報告書の通り一部の時間の必要な項目を除きフォロー済み。

詳細は「内部監査是正報告書」を参照のこと。

2 不適合事項に対する是正・予防措置

前回外部審査時の観察事項、内部審査での不適合事項は対応済み。

なお、外部、内部監査以外の不適合事項はなかった。

3 資源の妥当性

現状でとくに問題は無いが、あいちCO2削減マニフェスト2030、
なごやSDGsグリーンパートナーズへの登録を行う必要がある。

4 苦情を含む外部利害関係者からのコミュニケーション

実施した外部コミュニケーションは以下の通り(2020年8月以降)

(ア) あいちCO2削減マニフェスト2020参加

愛知県が実施する「あいちCO2削減マニフェスト2020」に継続して参加した。

この1年で大きな取組みは無いがCO2削減に貢献している。

「あいちCO2削減マニフェスト2020」は今年度で終了し、引き続き「あいちCO2削減マニフェスト2030」が開始されている。

- (イ) 名古屋市の優良エコ事業所認定
優良エコ事業所の認定を取得後、継続している。
- (ウ) 社外報の作成
継続して会社広報を目的として、昨年8月、今年1月に2回作成し、顧客、協力会社及び社員に配布した。
- (エ) 安全宣言の日、協力会社会の開催
2020年は、コロナの影響により開催せず、安全・環境関連連絡事項の書面配布（郵送）とした。2021開催予定の8月に予定通り開催するかはコロナ状況により未定である。

2021年の取り組み目標

環境マネジメントシステムの継続的改善方針

外部審査の指摘事項(観察事項)及び内部監査における不適合事項等を中心に、継続的改善は、恒常的に行っている。

新型コロナウイルスの影響は続くこと、SDGs、CO2削減への取組みがさらに重要になりつつあるため、EMSと会社の業務プロセスを融合して効率的な企業活動をすすめる必要がる。また、SDGs経営を目指し、脱炭素社会へ向け、SBTの取組みとして、スコープ1、スコープ2の見える化、更には環境に直接的に関わらないながらも、人、モノ、情報に関する改善取組みを行っていき、大きな意味での快適環境創造をしていく。

2021 年重点管理項目

目的・目標値 (すべて年間目標値)		2021 年度 目標値	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	記 事	
CO2 削減対策	ビルメンテナンス 業務におけるカー ボンオフセットの 取組みとして削減 した CO2 の重量	数値 42.7	45.0	56.0	オフセットは 2013 年より 昨年オフセット量：46.2t 目標は単年毎に設定する	
		指数 排出量 の 10%				
	使用する電気を再 生可能エネルギー に切り替える	数値	年度中 に切替	100%	100%	購入電力の契約変更を行う
	社有車のハイブリ ッド車率を高める	数値	1 台追加	1 台追加	1 台追加	買替時にハイブリッド車化
廃棄物削減	ユニフォームのリ サイクル 可燃物で廃棄せず にリサイクル化	数値	全量	全量	全量	昨年 11 月から実施している
	消毒液のスプレー ボトルのリサイク ル	数値	一部	20%	30%	今年度からの新しい取り組 み

[註] 指数は、前年度実績を 100 とした場合の各年度目標値の増減を示した。

CO2 排出量は産業連関表 2000 年生産者価格ベース（部門 374）建物サービスに基づき、排
出係数は 0.56t・Co2/百万
オフセットは総排出量の 1/10 とする

2021 年維持管理項目

項目	目的・目標値 (すべて年間目標値)		2021 年度 目標値	2022 年度 目標値	2023 年度 目標値	記 事	
電力消費量	2023 年度まで電力消費量を 34,500KWh 以下を維持	数値	34,500	34,500	34,500	2020 年 1～12 月の実績 値。 本社空調 7,943kwh 本社照明 15,455kwh 金山空調 9,155kwh 金山照明 3,446kwh 金山の電力消費量管理 を行うことにした。昨年 の電力消費量を参考に 設定した。	
		指数	156	156	156		
	本 社	冷暖房中の消費量を 8,000KWh 以下を維持	数値	8,000	8,000		8,000
			指数	106	100		100
	社	室内照明の電力消費量 14,500KWh 以下を維持	数値	14,500	14,500		14,500
			指数	100	100		100
	金 山	冷暖房中の消費量を 9,000KWh 以下を維持	数値	9,000	9,000		9,000
			指数	-----	-----		-----
山	室内照明の電力消費量を 3,000KWh 以下を維持	数値	3,000	3,000	3,000		
		指数	-----	-----	-----		
排気ガス抑制	排気ガスを抑制し、ガソリン 使用量を 2023 年度まで 9,500L 以下とする。(L/年)	数値	9,500	9,500	9,500	今後の車両入れ替え時 には目標値の見直しを 行う。 2021 年よりガソリン給 油記録の徹底と集計方 法の変更を行ったため、 2021 年 6 月頃に見直し を行う。	
		指数	100	100	100		
	排気ガスを抑制するため、 2023 年度まで 1 ℓ 当たりの 走行距離を 11.5km 以上とす る。(km/L)	数値	11.5	11.5	11.5		
		指数	100	100	100		

[註] 指数は、前年度目標値を 100 とした場合の各年度目標値の増減を示した。

お問い合わせ先

ユタコロジー株式会社

Tel 052-851-0077

Email info@yutacology.co.jp

HP www.yutacology.co.jp

YUTACOLGY

SDGs宣言

ユタコロジー株式会社は、

「人々のために、技術を伝播し、ワクワク感を共創する。」という
経営理念のもと、国際連合が提唱するSDGs (持続可能な開発目標) に
賛同し、持続可能な社会の実現に努めることを宣言いたします。

ビルメンテナンス業界から社会的課題の解決に取り組み、
ユタコロジー社員が一丸となって、持続可能な未来を築いてまいります。

2020年4月1日

ユタコロジー株式会社
代表取締役 酒井秀京

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ユタコロジー株式会社

〒466-0841 名古屋市昭和区広路本町4-48 <https://yutacology.co.jp>
tel/052-851-0077 mail/info@yutacology.com

環 境 方 針

(制定) 平成15年1月16日

(改訂) 平成16年12月1日

(改訂) 平成17年6月 1日

(改訂) 平成17年8月 1日

(改訂) 平成20年6月23日

(改訂) 平成23年5月25日

(改訂) 平成29年8月 3日

ユタコロジー株式会社

代表取締役 酒井秀京

1. 基本理念

当社は、社会の一員として地球環境の保全が、企業活動をすすめていくうえで最重要課題の一つであることを認識し、環境問題への取り組みを積極的、かつ具体的に推進します。

2. 基本方針

当社は、会社が行なうビル清掃を中心とする企業活動が環境に及ぼす影響を可能な限り低減するため、環境管理委員会の管理のもとに次の方針をより取り組みます。

- (1) 関連法令、業界の協定、その他の要求事項を遵守し、環境保全に努めます。
- (2) ビル清掃等の企業活動及びオフィス内の業務が環境に及ぼす影響を把握し、次の環境保全活動を推進します。
 - ア、清掃によって生じる汚水の適正処理
 - イ、洗剤類の使用基準と使用管理の設定
 - ウ、オフィス内における廃棄物の減量化と省エネ対策の推進
 - エ、車両運転における排気ガスの抑制
 - オ、エコマーク商品の積極的購入
 - カ、建物(素材)、人体、洗浄汚水等、環境汚染の低減に配慮した洗剤類の積極的販売
 - キ、カーボン・オフ・セットの手法を導入
 - ク、エコチューニング技術によるCO2削減の取り組み
- (3) 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムを定期的に見直し、継続的に改善することにより、環境汚染の予防に努めます。
- (4) 環境方針は、全社員が理解し、本方針に基づいた活動を行なうよう、社員教育を推進し、本方針の趣旨を徹底することとします。
- (5) 環境保全に関する行政指導、キャンペーン等に積極的に協力するとともに、社員の家庭に対しても教宣活動を行ないます。
- (6) この環境方針は、協力会社等にも配布、説明し、趣旨を徹底するとともに、一般の人から求められた場合は、積極的に交付することとします。

また、関係会社、特に協力会社に対しては、環境方針のみならず、システム全般についても理解と協力が得られるよう働きかけることとします。

以 上